

| 教育的価値   | 具 体 の 項 目   | 教育課程 |
|---------|---|------|
| 3【そなえる】 | ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】<br>平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 | 学校行事 |

【題材】「体験を通して学ぶ」・・・震災津波により被災した地域の様子を自分の目で見、震災時の様子を自分の耳で聞くという体験を通して、児童一人一人が得た思いや気付きから、今後自分に何ができるか、どう行動していくかを考えながら学びを広げていく。

【対象】3～6年（15名）

7月11日(金)被災地視察・被災地校との交流(3～6年)陸前高田市、米崎小学校

9月18日(木)修学旅行(5.6年)宮城県東松島市

10月25日(土)学習発表会(5.6年)震災学習のまとめを1, 2年・保護者・地域の方々に報告

12月以降 郷土に対する歴史や自然についての学習(全5回)(全校・5,6年)

【実践の概要・詳細】

**1. 被災地の視察・被災地校との交流(7/11)**

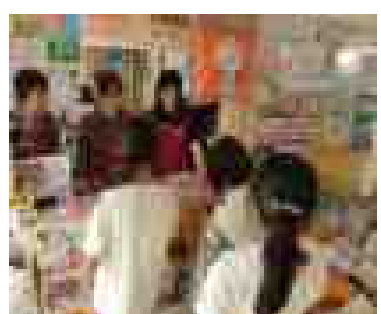
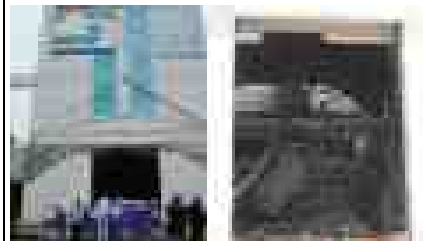
早朝7時に借り上げバスで学校を出発。花巻、宮守を経由し陸前高田市へ向かう。沿岸に近づくにつれ、何カ所か仮設住宅が見えた。

国道45号線、道の駅「タピック45」に到着。陸前高田市観光物産協会より紹介された震災語り部菅野さんより被災した道の駅「タピック45」の説明を受ける。室内に突き刺さる松の大木、ねじ曲げられたガソリンスタンドの看板、その他から津波の恐ろしさやパワーのすごさを感じる。隣の追悼施設に貼られた写真から被災前の周囲の様子が分かった。津波の犠牲で亡くなられた方々手を合わせた。その後、一本松、米崎中学校、諏訪神社、駅前等をバスで視察して回る。諏訪神社に登る階段では、津波の到達地点に驚く。地震が来たら津波を警戒しすぐに高台避難しなければならないことを身をもって知ることができた。復興のシンボルとも言える巨大ベルトコンベアーや並ぶ重機群、造成された高台や建設中の復興住宅を見て復興のための取り組みを知った。一刻も早い復興を願う。

交流先の米崎小学校へ向かう。米崎小学校では創作和太鼓「重倉太鼓」に取り組んでいる。本校でも創作和太鼓「堰賛太鼓」に取り組んでいるので、太鼓演奏を通じて交流することで元気づけられたらという思いがあった。図書室をお借りして昼食を摂る。校庭には仮設住宅が建ち並んでいたが、昼休みには狭い中にも元気に遊ぶ子どもたちの姿を見る事が出来た。着替え等の準備をして体育館へ。米崎小学校の5・6年生と交流をもつ。歓迎の言葉を受ける。本校代表児童によりプレゼンデータを使った南畑小の学校紹介を行った。その後それぞれの太鼓演奏、感想発表、ゲーム等をして交流する。米崎小の太鼓演奏の素晴らしさや一生懸命さ、交流時の明るさからかえって元気を貰う事となった。

復興支援の一つとして、帰りに陸前高田物産センターで買い物をする。(お土産代1,000円以内)帰る時、店の方々が外に出てバスに向かっていつまでも手を振って見送ってくれた。子どもたちは、復興に向けて頑張る様子や人の温かさを感じたと思われる。

帰校後、視察と交流の様子をDVDにして保護者に配布した。



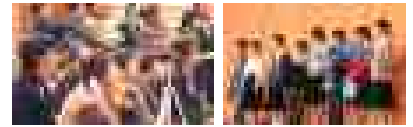
**2. 修学旅行（9／18）**

東日本大震災で多くの死者・行方不明者を出した東松島町野蒜地区を視察。ガイドさんから震災当時のことを詳しく聞く事で津波の恐ろしさを再認識した。



**3. 学習発表会**

震災学習で学んだ事を、5・6年生が報告資料にまとめ、学習発表会の場で1、2年生や保護者、地域の方々に報告した。被災地訪問の後に個人新聞を作成し、ホールに掲示してもらった。



**4. 郷土を知る学習**

自分たちの暮らす地域や岩手県の事について5人の講師を招き学習した。郷土について理解を深める事で郷土について考えるきっかけとなった。



**児童の感想**

**被災地訪問で学んだ事 3年 W・M**

一略ー陸前高田市に着きました。家がまったくありませんでした。あるのは電柱や草や木ばかりでした。見ただけで何もかも流されてしまったんだなと思いました。一略ー

**被災地訪問で学んだ事 4年 I・N**

一略ー「津波はざんこく、ひさん」という言葉が心に残りました。道の駅がこわされていました。とてもこわかったです。引き波という波が8回もくり返してこわれてしまったそうです。一略ー

**被災地訪問で学んだ事 5年 N・S**

7月11日は本当に多くのことを学びました。復興の状況、津波の高さ、一本松のこと。色々な思い出もできました。特に米崎小学校の人たちとの交流です。津波で家や家族を亡くした人たちもあの中には居るんじゃないかと思いました。そして、心に傷を負った人、希望を無くした人も多く居るんだなと思いました。でも、米崎小学校の人たちは元気で笑顔を見せていてすごいと思いました。

**復興に向けて 6年 Y・Y**

陸前高田市には、大きなベルトコンベアーがあります。幅1.8m、全長約5kmで、山から土を運ぶ役目を果たしています。ベルトコンベアーは1日あたり約2万立方メートルの土砂を運んでいます。高台を1日でも早く造るためには、

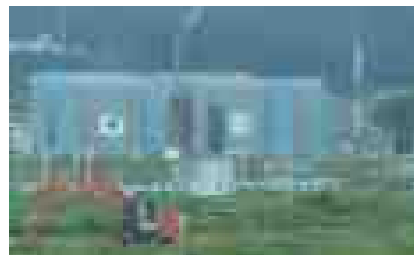
膨大な土砂をトラックで運ばなければなりません。それは大変なので、このコンベアーで安全に作業を進めています。ガイドの菅野さんは「山がどんどんどん小さくなっている。」と言っていました。復興するには、自然を壊すしかない事を感じました。現在は、新しく約12.5mの堤防を造っているそうです。完全に復興するにはとても年月がかかり大変そうでした。私は、もし津波が来て誰かが亡くなったら、ショックを隠しきれないと思います。だけれども、陸前高田の人々はとても明るく楽しい方たちばかりでした。そんな方たちを私はとても尊敬します。私に出来ることがあったら、何からでも出来たらなと思います。

**米崎小学校との交流 6年 H・M**

米崎小学校は、全校児童157名で、5・6年生だけでも52名います。米崎小学校では「重倉太鼓」という太鼓に5・6年生が取り組んでいます。「重倉太鼓」はこの太鼓をつくった時に学校にいた6年生がつけた名前です。テンポが速く、とてもよい演奏でした。私たちが「堰賛太鼓」を思いを込めてたたきました。米崎小学校の皆さんが喜んでくれたので、とても嬉しかったです。演奏の後、ゲームなどで交流しました。5・6年生は皆元気で明るかったのですが、親を亡くしてしまった人が数名いたそうです。今、私たちにできることは、陸前高田市で見てきたものを目と耳と心に刻みつけ、人生を送っていく事だと思います。

**まとめ**

- ・実際に現地を訪れ、体験者の話を聞き、自分の目で見たことで、映像からだけでは知ることの出来ない津波の本当の恐ろしさを実感することができた。
- ・復興に向けた色々な取り組みがなされていることが分かった。
- ・被災地校との交流を通して、被災しながらも明るく元気に頑張っている人たちと接することで勇気や元気をもらい、自分たちも頑張ろうとか自分たちに何が出来るかとかを考えたりするきっかけとなった。
- ・沿岸部における地震時の対応(津波の可能性と高台への避難)の仕方が分かった。
- ・自分たちの住む郷土について理解を深めることや郷土に対する愛着を深める事ができた。



復興住宅の建設

**保護者の感想**

ただ見てきただけではなく、それにより自分たちに出来ることは何かと考えられるようになっていっているのが発表からよく分かり成長を感じた。

| 教育的価値   | 具 体 の 項 目   | 教育課程 |
|---------|---|------|
| 3【そなえる】 | ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】<br>平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 | 学校行事 |

【題材】「体験を通して学ぶ」・・・震災津波により被災した地域の様子を自分の目で見、震災時の様子を自分の耳で聞くという体験を通して、児童一人一人が得た思いや気付きから、今後自分に何ができるか、どう行動していくかを考えながら学びを広げていく。

【対象】3～6年（15名）

7月11日(金)被災地視察・被災地校との交流(3～6年)陸前高田市、米崎小学校

9月18日(木)修学旅行(5.6年)宮城県東松島市

10月25日(土)学習発表会(5.6年)震災学習のまとめを1, 2年・保護者・地域の方々に報告

12月以降 郷土に対する歴史や自然についての学習(全5回)(全校・5,6年)

【実践の概要・詳細】

**1. 被災地の視察・被災地校との交流(7/11)**

早朝7時に借り上げバスで学校を出発。花巻、宮守を経由し陸前高田市へ向かう。沿岸に近づくにつれ、何カ所か仮設住宅が見えた。

国道45号線、道の駅「タピック45」に到着。陸前高田市観光物産協会より紹介された震災語り部菅野さんより被災した道の駅「タピック45」の説明を受ける。室内に突き刺さる松の大木、ねじ曲げられたガソリンスタンドの看板、その他から津波の恐ろしさやパワーのすごさを感じる。隣の追悼施設に貼られた写真から被災前の周囲の様子が分かった。津波の犠牲で亡くなられた方々手を合わせた。その後、一本松、気仙中学校、諏訪神社、駅前等をバスで視察して回る。諏訪神社に登る階段では、津波の到達地点に驚く。地震が来たら津波を警戒しすぐに高台避難しなければならないことを身をもって知ることができた。復興のシンボルとも言える巨大ベルトコンベアーや並ぶ重機群、造成された高台や建設中の復興住宅を見て復興のための取り組みを知った。一刻も早い復興を願う。

交流先の米崎小学校へ向かう。米崎小学校では創作和太鼓「重倉太鼓」に取り組んでいる。本校でも創作和太鼓「堰賛太鼓」に取り組んでいるので、太鼓演奏を通じて交流することで元気づけられたらという思いがあった。図書室をお借りして昼食を摂る。校庭には仮設住宅が建ち並んでいたが、昼休みには狭い中にも元気に遊ぶ子どもたちの姿を見る事が出来た。着替え等の準備をして体育館へ。米崎小学校の5・6年生と交流をもつ。歓迎の言葉を受ける。本校代表児童によりプレゼンデータを使った南畑小の学校紹介を行った。その後それぞれの太鼓演奏、感想発表、ゲーム等をして交流する。米崎小の太鼓演奏の素晴らしさや一生懸命さ、交流時の明るさからかえって元気を貰う事となった。

復興支援の一つとして、帰りに陸前高田物産センターで買い物をする。(お土産代1,000円以内)帰る時、店の方々が外に出てバスに向かっていつまでも手を振って見送ってくれた。子どもたちは、復興に向けて頑張る様子や人の温かさを感じたと思われる。

帰校後、視察と交流の様子をDVDにして保護者に配布した。

